

北里大学東洋医学総合研究所 漢方薬学レジデントプログラム概要

1. 名 称

学校法人北里研究所 北里大学東洋医学総合研究所 漢方薬学レジデントプログラム

2. プログラムの目的

近年現代医療において漢方薬は治療薬として定着してきており、今後漢方薬の有用性はさらに広まることが期待される。臨床での漢方薬による薬物治療の増加に伴い、患者が漢方薬を適正に使用するためには、特に漢方薬の基本剤形である煎剤を中心として漢方薬の服薬指導全般に関して薬剤師による服薬指導が重要な位置づけとなっている。プログラムは漢方薬の基本剤形である煎剤の調剤を中心に、漢方医薬学の基礎理論を学び、処方箋に記載された漢方処方方の理解、生薬(本草学)の基本的な知識及び品質管理、さらに服薬指導時に必要とされる漢方薬の煎出方法、効能、副作用などに関する指導を行う。本研修は漢方医薬学に関する幅広い知識を、実務を通じて修得し、薬剤師による服薬指導の充実および漢方薬の適正使用により患者に質の高い医療の提供を目標としている。

3. プログラムの内容

1) 下記のプログラムを業務経験・修得内容に応じ、段階的に研修する。

- ・教育担当指導者より全ての業務を修得し、漢方薬の調剤を基本とした漢方薬局の業務を理解する。
- ・処方箋内容が理解でき、処方や生薬の特徴を把握し、薬局業務全般を理解する。
- ・勉強会のローテーションに参加し、生薬・処方・古典を学び、理解を深める。
- ・医局合同勉強会に参加し、発表する。
- ・患者から薬や煎じ方、症状に関する問い合わせに対して、薬剤師としての対応内容に関して教育を受け、患者からの電話による問い合わせに対応する。
- ・指導者としての教育を受け、薬学生や医学生の薬局実習の教育を担当する。
- ・東洋医学全般の知識を理解するために、入所時に他部署オリエンテーションに参加する。

2) 研修内容の確認

- ・修得内容に応じ、業務内容、漢方医薬学的知識、漢方臨床薬剤師としての知識等の試験を受ける。試験合格を受け、段階的に遂行業務を拡大する。

4. 研 究

薬剤師レジデントは研修状況に応じて薬剤部の業務に必要な研究テーマを定め、2年目より薬剤部研究報告会にて、研究内容について報告する。一定の成果が得

られた場合は、業務に反映するとともに、学会報告を行い論文としてまとめる。（原則として必須）

5. 関連学会

日本東洋医学会 和漢医薬学会 日本生薬学会 日本薬学会 漢方治療研究会
日本薬剤師会 医療薬学会 他

6. 教育体制

(1) 教育責任者 小林 義典 (副所長)

(2) 指導者リスト

緒方 千秋 (広報・医療相談室長)

坂田 幸治 (薬剤部 科長補佐)

佐橋 佳郎 (薬剤部 科長補佐)

7. 研修期間

2年間 (全日研修)

8. プログラム管理体制

(1) 漢方薬学研修に関する教育委員会の構成と運営方法

薬剤部責任者と各教育指導者により構成される。1名の教育委員長が置かれ、研修の教育委員会の司会進行をつとめる。

検討項目は、研修全般にわたるが定期的に研修生評価や指導者評価も行い、プログラム内容の改善も適宜検討する。

(2) 研修生の就業規定、顕彰、処罰規定

漢方薬学研修プログラムの修了年限は別途定めてあるが、研修生の就業規定は、別途定める。学校法人北里研究所就業規則及び北里大学東洋医学総合研究所研修生取扱規定及び鍼灸診療部教育研修生内規に準ずる。これらに照らして著しく言動等に問題のある場合、研修意欲が著しく低下したと判断された場合は、教育委員会の上申に基づき北里大学東洋医学総合研究所（以下：東医研）運営会議で審議の上、戒告や処罰が行われる。

(3) 研修生採用方法

漢方薬学レジデントプログラム応募要領を参照のこと。

(4) 研修資格

1) 薬剤師の資格を有する者。

上記条件の者が、所定の書式により応募を行い、採用試験（面接を含む）を経て採否が決定される。

9. 薬剤師レジデント

各年度の状況により適宜定め、最大2名とする。

10. 評価

(1) 一次評価

研修生は定期的な試験及び、1年次、2年次研修修了試験にて評価する。

(2) 二次評価

定められた研究内容の進行状況、学会報告の有無などにより評価する。勤務態度や協調性、責任感・誠実性なども評価の対象となる。勉強会の出席状況等も考慮される。

11. プログラム修了の認定

規定プログラムを修了した者については、上記研修評価記録を踏まえ、当初の到達目標に至ったか否かを教育委員会で討議し、最終的な修了認定を行う。

12. 処 遇（給与・研修費）

学校法人北里研究所 嘱託職員給与規程により、有給とする。